

K-615

西山山麓広域営農団地造成・農道整備事業関係遺跡

# 分布調査報告書

1983

長井市教育委員会

西山山麓広域営農団地造成・農道整備事業関係遺跡

# 分布調査報告書

1983

長井市教育委員会



## 序

この報告書は、昭和57年度に実施した「広域営農団地造成農道整備事業」とそれに伴う「農用地開発事業」に関する埋蔵文化財包蔵地の詳細分布調査の結果をまとめたものであります。

このような開発事業は、特に西山山麓の土地利用のうえで早くから待ち望まれていた農林事業であります。この事業の推進がそのまま豊かなふるさとづくりとなることは誠に喜ばしいことであります。

しかしその反面において、大規模で広域に亘る開発事業と直接にかかわりをもつ地中の埋蔵文化財との間には、多くのことがむずかしい問題としてでて参りましたが、幸いにも関係機関の理解によりスムーズな調整が行われたことは大変にありがたいことであります。またこの事業を進める中において、地域の人びとが遺跡の宝庫といわれる西山山麓について、今までにない関心と理解を示されたことは、遺跡の保護と活用のうえで大きな前進と思います。それは、遺跡が人びとにとってかけがえのない由緒としてお互いの心にかかわりをもつことができたためだと思います。

濃い縁に包まれ澄んだせせらぎの音をきく西山山麓のいたる所に、先人の生活の跡をとどめております。私どもはそこに心のよりどころを求め更に新鮮な活力を培いたいものです。そのために、これからもとめどなく進められる開発の中で誠意ある調整をはかり、埋蔵文化財の保護につとめる所存であります。

最後ではありますが、本調査に御指導御協力いただいた関係各位並びに地元の方がたに感謝申し上げると共に、本書が埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いと思います。

昭和58年3月

長井市教育委員会

教育長 鈴木松市



## 例　　言

- 1 本書は、長井市教育委員会が国庫補助を得て、昭和57年度に実施した、西山山麓の「広域農業団地農道整備事業」とそれに伴う「農用地開発事業」にかかる遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査期間は昭和57年7月16日から58年3月31日までである。
- 3 調査には、調査主任 佐藤正四郎、調査員 村上和雄、同 佐藤義信と西根地区的青木喜作・江川富造・遠藤信利・佐藤太兵衛・鈴木市三郎・鈴木七右エ門・孫田作丸・孫田七右エ門・平 美津雄の各氏と県立長井工業高校の生徒諸君の積極的な参加によって調査を進めることができた。
- 4 本調査を進めるに当って次の各氏の御指導、御援助をいただいた。記して謝意を表する。

柏倉亮吉（山大名誉教授） 加藤 稔（県立山形南高校） 川崎利夫（天童津山小）  
佐藤鎮雄（南陽赤湯中） 佐々木洋治（県教委文化課） 竹田欣助（市文化高齢化社会主幹） 金田喜三（北堂遺跡地権者） 野川土地改良区 西根地区区長会 西根地区郷土史会 長井市農林課
- 5 插図・付図の縮尺についてはスケールで示した。図版内の遺物は $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{4}$ を原則とした。
- 6 本調査は現地踏査にとどめたところが多く、場所によっては後日範囲の変るところもあると思われる。
- 7 本書は、佐藤正四郎、村上和雄、佐藤義信が作成した。

## 目 次

I	山麓遺跡の概要 .....	1
II	調査の経緯 .....	3
1	調査に至るまで .....	3
2	調査の方法 .....	3
3	調査の経過 .....	4
	付表1 分布調査工程表 .....	4
III	調査の概要 .....	5
IV	遺跡の位置と現況 .....	17
V	遺 物 .....	33
VI	ま と め .....	41

## 插図目次

第1図 分布調査遺跡地図 .....	2
第2図 白山森遺跡概要図 .....	折込
第3図 北堂C遺跡概要図 .....	折込
第4図 遺跡位置図 .....	17
第5図 遺跡位置図 .....	19
第6図 遺跡位置図 .....	21
第7図 遺跡位置図 .....	23
第8図 遺跡位置図 .....	25
第9図 遺跡位置図 .....	27
第10図 遺跡位置図 .....	29
第11図 遺跡位置図 .....	31
第12図 石器実測図 .....	33
第13図 石器実測図 .....	34
第14図 土器拓影図・凹石実測図 .....	35

## 図版目次

図版1 遺跡現況 .....	18
図版2 遺跡現況 .....	20
図版3 遺跡現況 .....	22
図版4 遺跡現況 .....	24
図版5 遺跡現況 .....	26
図版6 遺跡現況 .....	28
図版7 遺跡現況 .....	30
図版8 遺跡現況 .....	32
図版9 分布調査遺物 .....	37
図版10 分布調査遺物 .....	38
図版11 分布調査遺物 .....	39
図版12 分布調査遺物 .....	40

## I 山麓遺跡の概要

西山山麓一帯は古くから、いたるところから土器や石器の出るところとして知られていた。しかしそれらの遺物の散布地が遺跡として理解されることもなく、長い間放置のままの状態で、人びとには顧みられることもなかった。

このような状態が長く続いたが、明治から大正にかけて宮坂善助らは、長者原の方々で土器を掘り出したようである。そのことについて土地の人びとの反応は、珍しいものとは思ったようであるが、もの好きのすることとしてさ程の関心もなかったようである。

戦後になって、地元の中学校の教師となった高橋右文は、自分の開墾畑から出土する土器や石器に興味をもち付近の山麓を歩き多くの遺物を探集した。また自分の開墾地の裏山にある戸根林館跡の見取図をつくり、ガリ板刷りの「くさおか」を刊行した。その後も余暇をみては草岡地内の社寺の縁起や碑をはじめ地域の歴史を「くさおか」の中に収録した。これは西根地区における郷土史研究の先駆をなすものである。しかし埋蔵文化財の調査までは及ばなかったことが今にして惜しまれる。

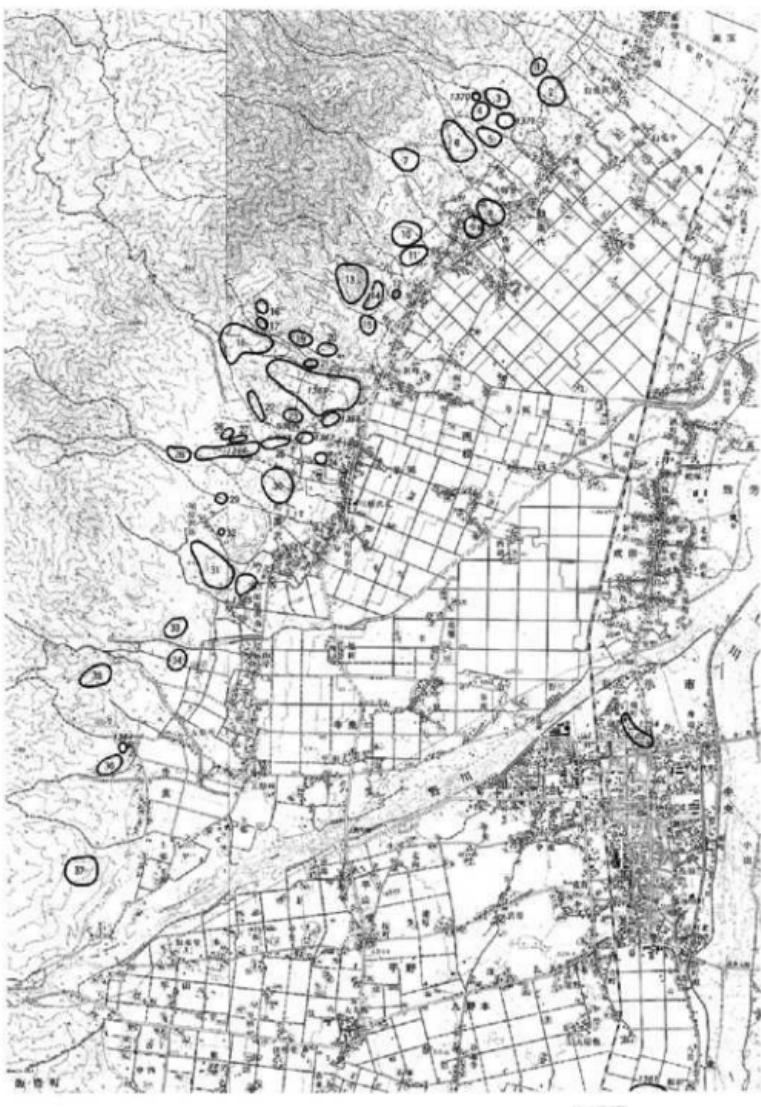
こうした中において戦後の増産のための開墾は急ピッチに進められた。その開発は山麓に入った入植者だけではなく、いわゆる「里まえ」の人びとも競って開墾にとりかかった。また養蚕地帯の西根地区にとって養蚕技術の進歩は、桑園の拡大が喫緊の課題となり、そこに大型機械が導入され、山麓一帯はまたたく間に桑園となった。その一方では、水不足に悩まされていた西根地区は、野川の水を導入すべく12キロに及ぶ幹線水路を山麓に造成した。このことによって山麓の高所にまで水田がつくられるようになった。このように菜園・桑園・水田が造成され、更にそれに伴う農道の整備によって、山麓台地は広大な耕地となった。

このような開発の中で、遺跡の保護についての施策は、開発の前には微力なものであったようと思われる。

山麓の遺跡数は昭和38年刊「山形県遺跡地名表」に登録された遺跡は10遺跡、昭和53年刊の「遺跡地図」には8遺跡に過ぎなかった。特に西山山麓の場合、遺跡であることがわかつていてもそれが登録されていないために開発優先で事が進められたことは事実である。

一方開発と同様に文化財保護の運動も高まり、その保護行政も強力に推し進められ、開発関係機関との調整が行われるようになったことは遺跡保護にとって大きな前進である。

思うに、山麓の遺跡は上に述べたような事情によって壊滅したものも少なくないし、また多くの遺跡が一部破壊となってしまった。それは埋蔵文化財についての理解の低さによることは当然であるが、人びとに文化とか埋蔵文化財についての話題を提供することがなかったこと、それを提供する研究者のなかったことが大きな原因の一つであったと思う。



第1図 分布調査遺跡地図

## II 調査の経緯

### 1 調査に至るまで

西山山麓に散在する遺跡は、前項に記したとおり多くの遺跡が破壊されたが、その後も山麓台地は更に汚泥客土の採土地となったりして、台地の様相を一変した箇所も少なくなつた。そしてその中にあった遺跡は壊滅した。

白山森も採土地にくみ入れられた一つである。

汚泥客土の準備作業中に中世の館跡であることが確認された遺跡である。幸いにも客土着工寸前において工事が中止され、遺跡は現状のまま保存されることになった。そこに至るまでには市教育委員会と市は、事業主体の県並びに施工者の野川土地改良区、それに受益者との間に度重なる協議を行つた。そして遺跡保護のもとに採土地を他に求めることで合意を得ることができた。

しかし、山麓の可耕地開発の計画は更に大規模に進められ、昭和60年から10ヶ年計画で「広域営農団地造成農道整備事業」と「農用地開発事業」が進められている。

それに対処すべく市教育委員会は、置賜北部・西置賜地方事務所・野川土地改良区・市農林課との協議を経て、西山山麓一帯を対象に遺跡詳細分布調査として、昭和57年7月16日から国庫補助を得て実施した。

### 2 調査の方法

#### (1) 現地確認調査

長井市白兎六道付近から山麓に入り、同勧進代、草岡、川原沢、寺泉、平山に亘る山麓一帯の表面調査を実施した。その中で周知の遺跡については、現地の状況、範囲の確認に重点をおいた。

また遺物の散布・出土についての情報を収集しながら新規遺跡の発見に意を用いたが、特に地形等で立地に恵まれたところについては入念な調査を行つた。

#### (2) 試掘調査

重要な遺跡と思量したものについては坪掘りをし、遺跡の範囲、遺物遺構の集中地区、時代、性格を確認しようとした。

#### (3) 試掘を含む発掘調査

川原沢白山森遺跡と勧進代北堂遺跡については、今後の調査に備えて地形図を作成した。また北堂遺跡については15ヶ所の試掘と、白山森遺跡については平場の一部を発掘調査した。

### 3 調査の経過

遺跡詳細分布調査は、長井市教育委員会が主体となり、長井市農林課、西根地区区長会、西根地区史談会の協力を得て、昭和57年7月16日から実施した。

調査の経過は次の工程表のとおりであるが、特に現地調査は天候に恵まれ、順調に進めることができた。特に現地調査では前に述べた事情もあるので、新規遺跡の発見に重点をおいて実施した。

本分布調査の中で白山森遺跡に多くの時間を要したのは次の事由によるものである。それは、地元としては、現状保存となる白山森遺跡の保護と活用のために遺跡公園をつくることをきめた。そして白山森遺跡保存会をつくりその準備を進めた。

一方市教育委員会は、従来の横森スキー場が、白山森に代る採土地となつたため、白山森を市営のスキー場とすることにした。

以上のような事情即ち公園化、スキー場造成という事態に対応すべく、本分布調査の中において必要最小の調査をした。その1は、遺構の状態と館跡の全貌を把握するための地図の作成であり、その2は建物跡の確認と年代究明のための平場の一部の発掘調査である。

表-1 分布調査工程表

内容	期日	昭和57年 7月	8月	9月	10月	11月	昭和58年 1月	2月	3月
現地踏査				27 15					
白山森遺跡 試掘調査		16 1							
白山森遺跡 遺構地形図実測		1	25						
北堂遺跡 試掘調査				19,20					
資料整理 報告書作成				21					

### III 調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
1	散布地	弁天前	長井市白兔字弁天前	縄文時代	畠地 杉林	段丘 (255m)
2	祭祀	明神堂	長井市白兔字明神堂	中世	杉林	段丘 (252m)
3	散布地	北堂A	長井市勘進代字北堂	縄文時代	桑畠 雜木林	河岸段丘 (282m)
4	散布地	北堂B	長井市勘進代字北堂	縄文時代	桑畠 雜木林	段丘 (287m)
5	包藏地	北堂C	長井市勘進代字北堂	旧石器時代 縄文時代 (前期・中期)	桑畠 雜木林	段丘 (286m)
6	散布地	三吉西	長井市勘進代字長峯・極楽沢	縄文時代	桑畠	段丘 (283m)
7	散布地	中峯	長井市勘進代字中峯	縄文時代	桑畠	小丘陵 (308m)
8	包藏地	唐梅	長井市勘進代字唐梅・飯沢	縄文時代 (中期・後期)	桑畠 宅地	段丘 (235m)
9	散布地	高野	長井市勘進代字高野	縄文時代	桑畠 一部宅地	段丘 (235m)
10	散布地	平林	長井市勘進代字平林	縄文時代	桑畠 一部墓地	小丘陵 (260m)

遺 路 概 要	遺 物	備 考
朝日山系からゆるやかに張り出した台地の斜面に遺物が若干散布する。	縄文土器片	新 規
通称「六道の辻」の南西部の段丘上に位置する。一部破壊されているが、現在9基確認され、密集・点在とその位置関係は多様である。		新 規
田沢川の砂防ダムの南方約70mの河岸段丘上に位置し、地表面には人頭大の礫が多くみられる。	縄文土器片・石鏃・剥片・碎片	新 規
No1370遺跡の南東側に隣接する。畠地に遺物が若干散布する。	碎片	新 規
田沢川と平沢川の中間、藏京堤の西南の台地に在る。台地中央部から東南斜面にかけて遺物が多く認められる。	縄文土器片・石鏃・削器・剥片・碎片・スクレイパー他	新 規 試掘調査実施
平沢川の段丘上に位置し、台地東端はキャンプ場になっている。遺物は台地南西斜面に多く散布する。	縄文土器片・石鏃・削器・磨石・剥片・碎片	新 規
平沢川の砂防ダムの南約80mの小丘陵上に在り現在は開墾され桑園となっている。通称与野山から成る鞍部に遺物が散布している。	石核	新 規
西根小学校跡進代分校から北西の宅地・畠地にかけての微高地一帯に遺物が散布する。また宅地造成の際にも遺物が出土している。	縄文土器片・剥片	新 規 安部博之氏・芳賀五郎氏 保管
平沢川の段丘上の微高地に遺物が若干散布する。なお、桑園造成、宅地化の際にも遺物が出土している。	縄文土器片・剥片	新 規
山麓から張り出した小丘陵上に位置し、道路をはさんだ両側に遺物が若干散布する。	縄文土器片・削器	新 規

## 調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
11	散布地	岡	長井市勘進代字岡・草岡境他	縄文時代	桑 烟	段 丘 (245m)
12	祭 祀	仁 府	長井市草岡字北口	中 世	桑 烟	段 丘 (246m)
13	館 跡	戸 根 林	長井市草岡字戸根林	中 世	雜 木 林	山 頂 (334.5m)
14	散布地	戸根林B	長井市草岡字戸根林	縄文時代	桑 烟 烟 地	山 麓 (268m)
15	散布地	戸根林C	長井市草岡字戸根林	縄文時代	荒 地 一部烟地	段 丘 (267m)
16	散布地	椀 平 A	長井市草岡字岩ヶ山	縄文時代	桑 烟	丘 陵 (346m)
17	散布地	椀 平 B	長井市草岡字岩ヶ山	縄文時代	桑 烟	河岸段丘 (345m)
18	散布地	梨ノ木平	長井市草岡字梨ノ木平・大石沢	縄文時代 (中 期)	桑 烟 草 烟 杉 地	丘 陵 (335m)
19	散布地	岩 ケ 山	長井市草岡字岩ヶ山・西岩ヶ沢	縄文時代 (前 期)	桑 烟 牧 草 地	段 丘 (290m)
20	散布地	西光寺西	長井市草岡字岩ヶ山・岩ヶ沢・西光寺	縄文時代	桑 烟	段 丘 (282m)

遺 路 概 要	遺 物	備 考
No10の台地の南側に位置する。周囲に灌漑用の溜池が散在していることから、一部破壊されているものと考えられる。	剝片	新 規
戸根林の東側に位置する。開墾の際、二基の壇と五輪塔の一部と思われるものが確認されたが、現在壇は一基のみ存在している。	五輪塔の一部	新 規 青木喜作氏・ 齊藤慶助氏 保管
山頂附近はほぼ平坦地となり、周囲は二重から三重の空堀がめぐらされ、深いところでは4mにも達する。		新 規
戸根林の南東側の山麓に位置する。南東に向って傾斜する緩斜面上に遺物が散布する。	縄文土器片・碎片	新 規
出来ヶ沢の段丘上に在り、現在はほぼ荒地となっている。開墾・炭焼窯造成の際、一部破壊されている。	碎片	新 規
小丘陵の陵線から南斜面に沿って遺物が若干散布する。	磨石・碎片	新 規
No16の南に位置し、南東方向に延びる段丘の中央部に位置する。主に段丘の緩斜面上に遺物が散布する。	竪状石器・剝片	新 規
岩ヶ沢川と久川にはさまれた広い台地上に位置し、台地の微高地を中心に、大きく5ヶ所に密集した遺物の散布がみられる。	縄文土器片・削器・ 凹石磨石・擦石・ 剝片・碎片	新 規
西光寺の西側に張り出した丘陵の元に在り、南東斜面に遺物が散布する。	竪状石器	新 規
No19の在る段丘の先端部に位置する。	剝片	新 規

## 調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
21	散布地	西岩ヶ沢	長井市草岡字西岩ヶ沢	縄文時代	畠地 雜木林	段丘 (268m)
22	散布地	片 倉	長井市草岡字梨ノ木平	縄文時代	桑畠 一部畠地	段丘 (291m)
23	散布地	西 寺 山	長井市草岡字西寺山	縄文時代 (前期)	桑畠 荒地	段丘 (272m)
24	散布地	中 里 B	長井市草岡字中里	縄文時代	畠地 水田	段丘 (243m)
25	集落跡	長者屋敷	長井市草岡字長者屋敷	旧石器時代 縄文時代 弥生時代	桑畠 水田	段丘 (267m)
26	散布地	畠 ケ 沢	長井市草岡字畠ヶ沢	縄文時代	桑畠 荒地	段丘 (290m)
27	散布地	長者原B	長井市草岡字長者原	旧石器時代 縄文時代	畠地 桑畠	段丘 (291m)
28	散布地	二 階 棚	長井市川原沢字松山	縄文時代	桑畠 一部杉林	河岸段丘 (325m)
29	散布地	道 合	長井市川原沢字道合	縄文時代	畠地 雜木林	段丘 (285m)
30	散布地	松 山	長井市川原沢字松山	縄文時代	桑畠 水田 杉林	段丘 (260m)

遺 跡 概 要	遺 物	備 考
通称「権三郎屋敷跡」と呼ばれており、段丘先端部の東斜面に遺物が散布する。	縄文土器片	新 規
中里堤の西側の小高い段丘上に在り、尾根から南斜面に遺物の散布をみる。	縄文土器片・剝片・碎片	新 規
台地南端の南東にのびる微高地に在る。尾根沿いに多くの遺物が散布するが、桑園造成の際一部破壊されている。	縄文土器片・削器・剝片・碎片	新 規
西根中学校の北側の段丘上に位置する。平坦地一帯に多量の遺物が散布する。	縄文土器片・石鏃・剝片・碎片	新 規
昭和52年から同55年にかけて、長井市教育委員会で発掘調査実施。旧石器・縄文・弥生時代にかけての遺跡であることが確認された。		新 規
久川の南西の段丘上に位置する。水田・桑園造成の際一部破壊されているが、東斜面の荒地には若干遺物が散布する。	縄文土器片	新 規
長者屋敷遺跡の西側に位置する。段丘上に遺物が散布する。以前先刀攝器が採集されている。	縄文土器片	新 規
北の沢川によって形成された河岸段丘の元部にあり、中央部を中心に南側斜面一帯に遺物が散布する。	範状石器・削器・石皿片・剝片	新 規
白山森の北方約600m の段丘上に在る。畠地となっている平坦地を中心には若干散布する。	剝片	新 規
西根中学校の西側の段丘中央部に位置する。東に張出した緩斜面に遺物が散布するが、水田・桑園造成の際一部破壊されている。	縄文土器片・範状石器・剝片	新 規

## 調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
31	館 跡	白 山 森	長井市川原沢字白山森	中 世	雜 木 林	山 頂 (303m)
32	散布地	神 明 森	長井市川原沢字神明森	縄文時代 (晚 期)	烟 水 荒 地 田 地	段 丘 (273m)
33	散布地	小 峠	長井市寺泉字小峠	旧石器時代 縄文時代	桑 畑	河岸段丘 (283m)
34	散布地	大 林	長井市寺泉字大林	縄文時代	桑 畑	段 丘 (265m)
35	館 跡	小 屋 館	長井市寺泉字小屋館	中 世	雜 木 林	山 陵 (379m)
36	包藏地	九兵衛山	長井市寺泉字上大沢	縄文時代 (早・前・中期)	荒 地 一部畑地	河岸段丘 (285m)
37	鎌 跡	南 鴨 石	長井市寺泉南鴨石沢	中 世	雜 木 林	山 陵 (380m)

山形県遺跡地図登載遺跡一覧表(昭和53年度版)

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
1354	集落跡	宮	長井市十日町	縄文時代 (中 期)	住 宅 地	平 地 (200m)

遺跡概要	遺物	備考
東南斜面はスキー場になっており、一部破壊を受けているものの、山頂附近の遺存状態は良好である。空濠・土塁・墳墓が確認された。	中世陶器片	新規 試掘調査実施
神明境と北境の中間の畠地に遺物が散布する。開田等で破壊されており、畠地のみ現形をとどめている。	縄文土器片・石鏃・剝片・碎片	新規
水無川北側の段丘上の微高地に在る。開墾・土採りにより一部破壊されているものの、微高地南半帶に遺物が散布し、特に中央部に顕著である。	縄文土器片・石鏃・凹石竪状石器・石核・剝片・碎片	新規
No33の南方約250m、東に張出す台地の低位中央の緩斜面に遺物の散布をみる。	凹石・磨石・剝片	新規
山頂附近に幅約1mの空濠が三重に巡らされており、雜木の自生が著しい。		新規
安の沢川の河岸段丘上に在り、台地中央部から北東にかけては遺存状態は良好である。開墾時に多量の遺物が出土している。	竪状石器 縄文土器片・ 竪状石器・石 匙・削器・剝 片	新規 鈴木与吉氏 保管 資料
東に張出す山陵の中腹に立地し、空濠が確認された。		新規

遺跡概要	遺物	備考
昭和31年に長井市教育委員会が発掘調査実施。昭和48年本遺跡の北西部からも遺物が確認され、範囲が広がった。	縄文土器 (大木7a・7b-8a) 石匙・石籠・石皿・ 叩石	昭和53年度版 遺跡地図登載

## 調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
1355	集落跡	岩 六	長井市上伊佐沢字岩六	縄文時代 (前期・中期)	畑 地	河岸段丘 (260m)
1356	集落跡	壇 の 越	長井市上伊佐沢字善並	縄文時代 (中期)	水 田	河岸段丘 (250m)
1357	集落跡	元 八 幅	長井市上伊佐沢3313	古墳時代	畑 地	段 丘 (227m)
1358	集落跡	太 田	長井市上伊佐沢1812	古墳時代	水 田	河岸段丘 (220m)
1359	集落跡	上 の 台	長井市上伊佐沢 字上の台521の2	縄文時代	畑 地	段 丘 (230m)
1360	集落跡	蜂 屋 敷	長井市上伊佐沢字上の台	縄文時代	畑 地	段 丘 (222m)
1361	集落跡	館 之 越	長井市泉館之越	縄文時代 (中期) 鎌倉時代	畠 地 墓 地	沖積台地 (208m)
1362	窯 跡	加賀 塚	長井市今泉下谷地	平安時代	水 田	平 地 (210m)
1363	窯 跡	今泉金山	長井市今泉	平安時代	果 樹 畑	丘 陵 (214m)
1364	集落跡	大沢第二	長井市寺泉字上郷4493	縄文時代 (中期)	畑 地 桑 畑	山 麓 (260m)

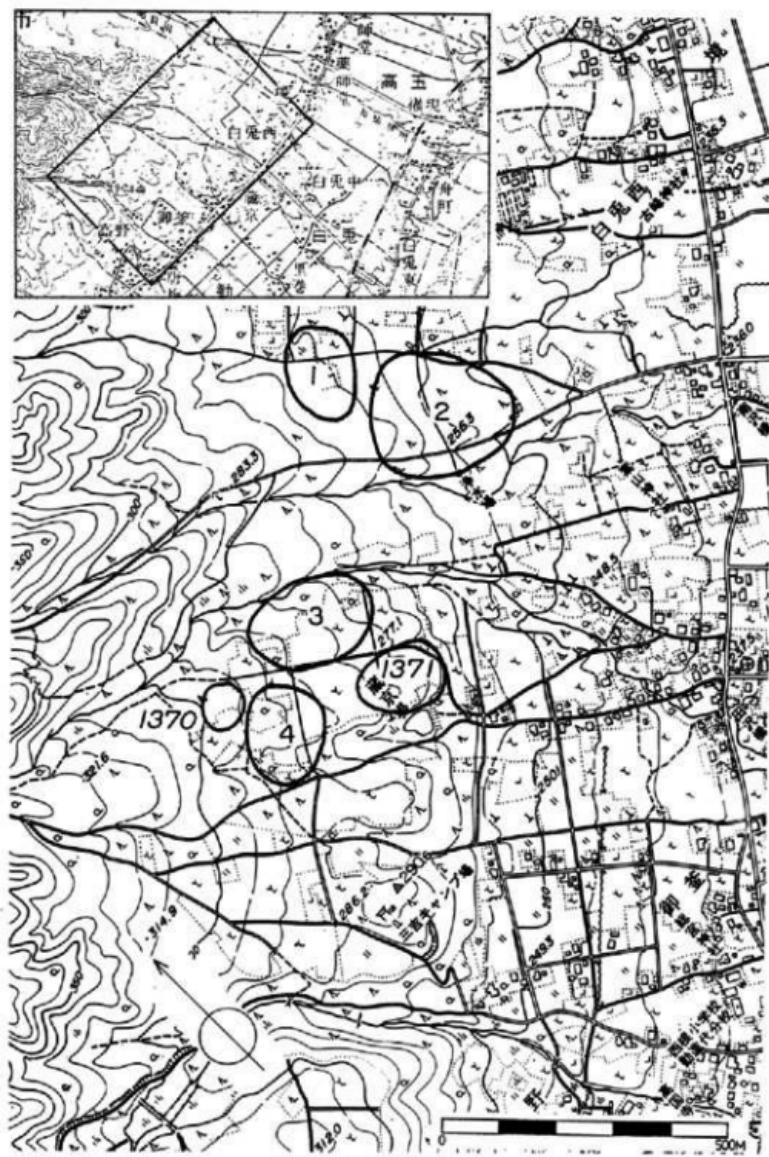
遺 跡 概 要	遺 物	備 考
河岸段丘上に位置し、東西50m・南北100mの範囲に遺物が散布する。遺存状態は良好である。	縄文土器片	昭和53年度版遺跡地図登載
昭和35~36年ごろ、開田の際一部破壊を受けている。	縄文土器片・搔器・石錐・石槍・磨製石斧・剝片	◆
段丘上の畠地に東西30m・南北50mにわたり遺物が若干散布する。	土師器	◆
河岸段丘上に位置する。昭和42~43年ごろ、開田時に一部破壊されている。遺跡範囲は東西30m・南北40m。	土師器	◆
段丘の畠地一帯に遺物が散布する。	縄文土器片・磨製石斧	◆
伊佐沢小学校の北側に在る。散布地の東と西は道路になっており、この道路にはさまれた畠地を中心に遺物の散布がみられる。遺跡範囲は東西200m・南北300m。	石錐	◆
長井市教育委員会により昭和45・46・49年に発掘調査がおこなわれ、袋状ピット・縄文土器片・石器・須恵器他が出土した。	縄文土器(大木7a・7b-8a-8b)・石錐・石遁・石棒・凹石・須恵器	◆
水田の中に4m四方、高さ1mの方台形状を呈し、遺存状態は良好である。	施釉土器	◆
西に傾斜している丘陵地に在る。3~4基の須恵窯跡からなり、東西20m・南北30mの範囲から多量の遺物が出土する。	須恵器・施釉土器	◆
育苗と桑畠になっており、東西50m・南北100mの範囲に遺物が散布する。重機による整地作業のため一部破壊されているものと推定される。	縄文土器片・石錐・石匙	◆

## 調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
1365	集落跡	黒 づく 附	長井市川原沢字黒附	縄文時代	烟 水 宅 地 田 地	山 蔗 (240m)
1366	集落跡	長 者 原	長井市草岡字長者原	縄文時代 (中期)	水 桑 烟 田 園 地	段 丘 (280m)
1367	集落跡	中 里	長井市草岡字中里	縄文時代 (晚期)	烟 地 牧 地 牧 草 地	段 丘 (250m)
1368	集落跡	南 寺 山	長井市草岡字南寺山	縄文時代 平安時代	烟 地 荒 地 地 地	段 丘 (273m)
1369	集落跡	新 田	長井市草岡字新田・西寺山・ 梨ノ木平	縄文時代	烟 牧 草 果 地 地 樹 桑 烟 烟	段 丘 (276m)
1370	集落跡	藏 京 A	長井市勘進代字藏京	旧石器時代 縄文時代 (晚期)	烟 地 山 林	段 丘 (295m)
1371	集落跡	藏 京 B	長井市勘進代字藏京	旧石器時代 縄文時代 (後期・晚期)	桑 烟	段 丘 (276m)

遺跡概要	遺物	備考
開田の際に多数の遺物が出土した。	縄文土器片	昭和53年度版遺跡地図登載
開田時に一部破壊は受けているものの、今次の調査でも広範囲から遺物が採集され、遺跡範囲も東西500m・南北200mと広がった。	縄文土器片・削器・剥片	*
段丘上の緩斜面に東西50m・南北40mにわたり多量の遺物が散布する。	縄文土器片(大洞C <sub>1</sub> )・剥片	*
台地東南端の微高地に在り、南側を久川が流れている。開墾時に一部破壊されているが、頂部から西斜面にかけて、特に道の切通しから遺物が採集される。	須恵器片・石匙・碎片	*
岩ヶ沢川と久川にはさまれた広大な台地上に位置し、台地中央から北側にかけて多量の遺物が散布する。遺跡範囲は東西500m・南北400mにおよぶ	石鐵・削器・搔器・籠状石器・石皿・磨石・剥片・碎片・尖頭器	*
畑地一帯に遺物の散布がみられるが、平坦地の大部分は山林に覆われているため、その範囲は明らかでない。以前石核が採取されている。	剥片・碎片	*
藏京堤のほぼ北側に位置し、台地中央部一帯に遺物が散布する。以前旧石器時代の石核が発見されている。	縄文土器片・搔器・剥片・碎片	*

#### IV 遺跡の位置と現況



第4図 遺跡位置図



No.1 弁天前遺跡近景



No.2 明神堂遺跡近景



No.3 北堂A遺跡近景



No.4 北堂B遺跡近景



No.1370 藏京A遺跡遠景



No.1371 藏京B遺跡遠景

図版1 遺跡現況



第5図 遺跡位置図



No.5 北堂C遺跡近景



No.6 三吉西遺跡近景



No.7 中峯遺跡近景



No.8 庵梅遺跡近景



No.9 高野遺跡近景



No.10 平林遺跡近景

図版2 遺跡現況



第6図 遺跡位置図



No.11 岡遺跡近景



No.12 仁府遺跡近景



No.13 戸根林遺跡遠景



No.14 戸根林B遺跡近景



No.15 戸根林C遺跡近景



No.16 榆平A遺跡遠景

図版3 遺跡現況

遺跡の位置と現況



第7図 遺跡位置図



No17 桧平B遺跡近景



No18 梨ノ木平遺跡近景



No19 岩ヶ山遺跡近景



No20 西光寺西遺跡近景

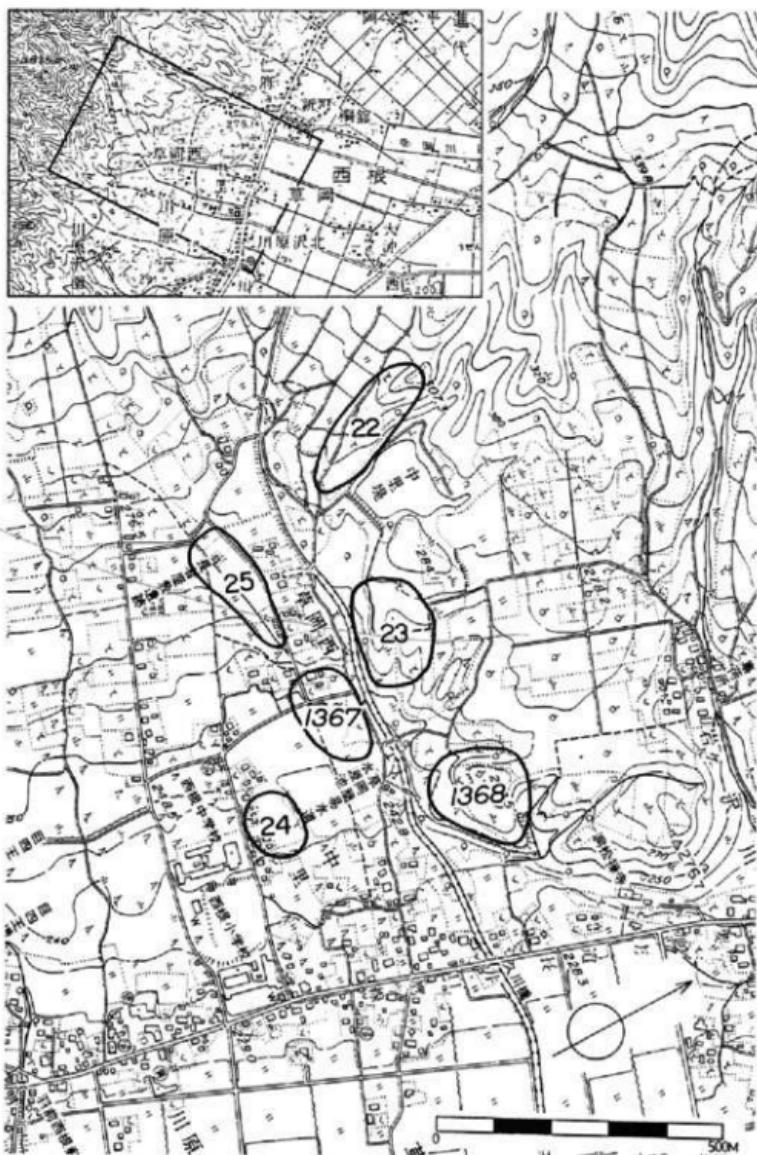


No21 西岩ヶ沢遺跡遠景



No 1369 新田遺跡近景

図版4 遺跡現況



第8図 遺跡位置図



No.22 片倉遺跡近景



No.23 西寺山遺跡遠景



No.24 中里B遺跡近景



No.25 長者屋敷遺跡遠景



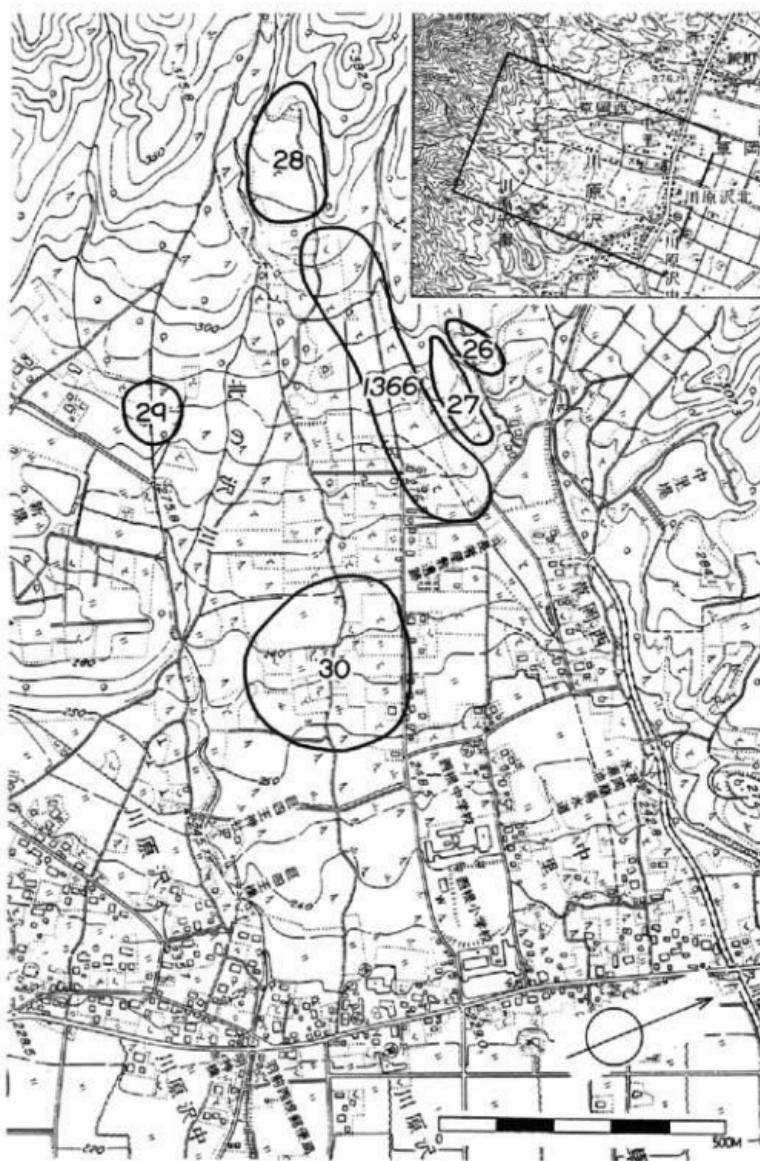
No.1367 中里遺跡遠景



No.1368 南寺山遺跡遠景

図版5 遺跡現況

遺跡の位置と現況



第9図 遺跡位置図



No.26 煙ヶ沢遺跡近景



No.27 長者原B遺跡近景



No.28 二階櫻遺跡近景



No.29 道合遺跡遠景



No.30 松山遺跡近景



No.1366 長者原遺跡近景

図版 6 遺跡現況

遺跡の位置と現況



第10図 遺跡位置図



No.31 白山森遺跡遠景



No.32 神明森遺跡近景



No.33 小峯遺跡遠景



No.34 大林遺跡近景



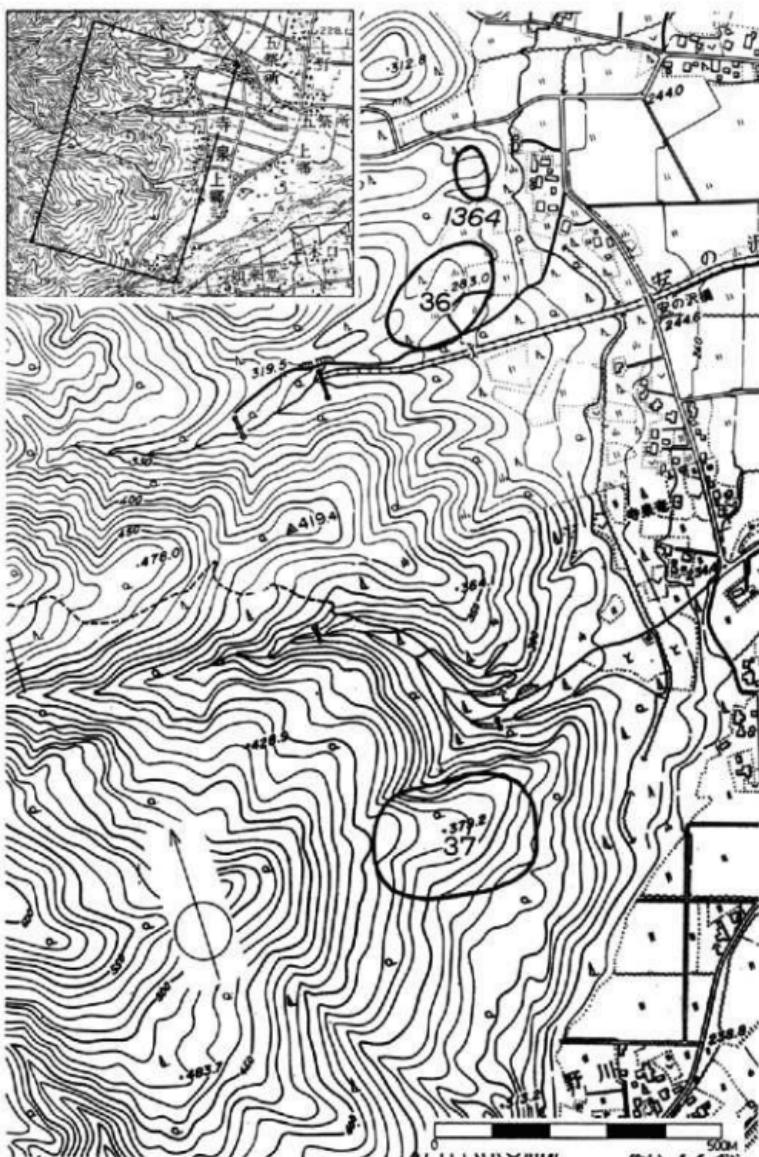
No.35 小屋館遺跡遠景



No.1365 黒附遺跡

図版7 遺跡現況

遺跡の位置と現況



第11図 遺跡位置図



No.36 九兵衛山遺跡近景



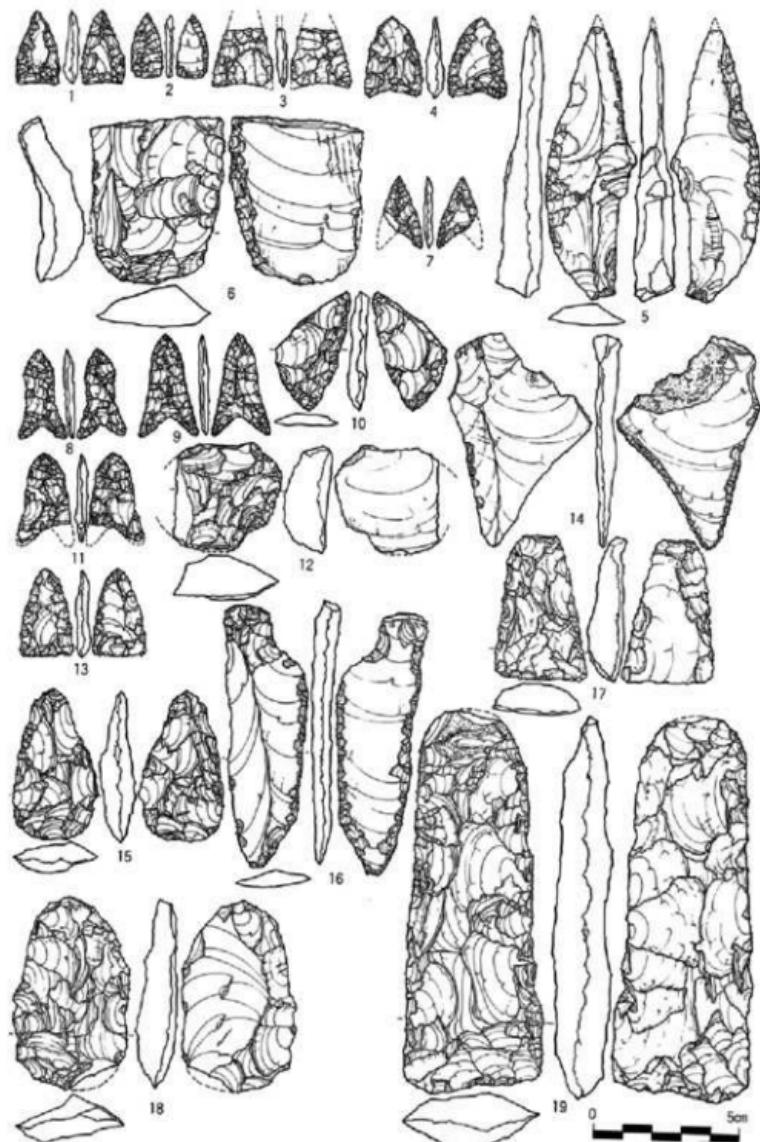
No.37 南鶴石遺跡遠景



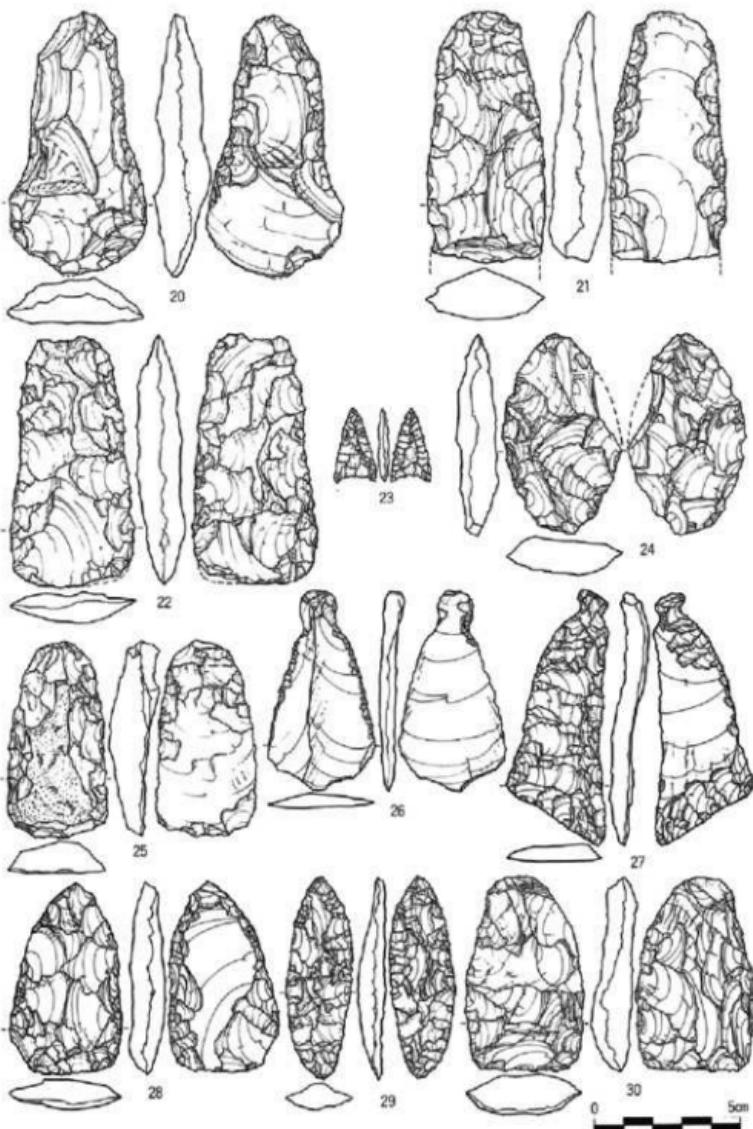
No.1364 大沢第2遺跡遠景

図版8 遺跡現況

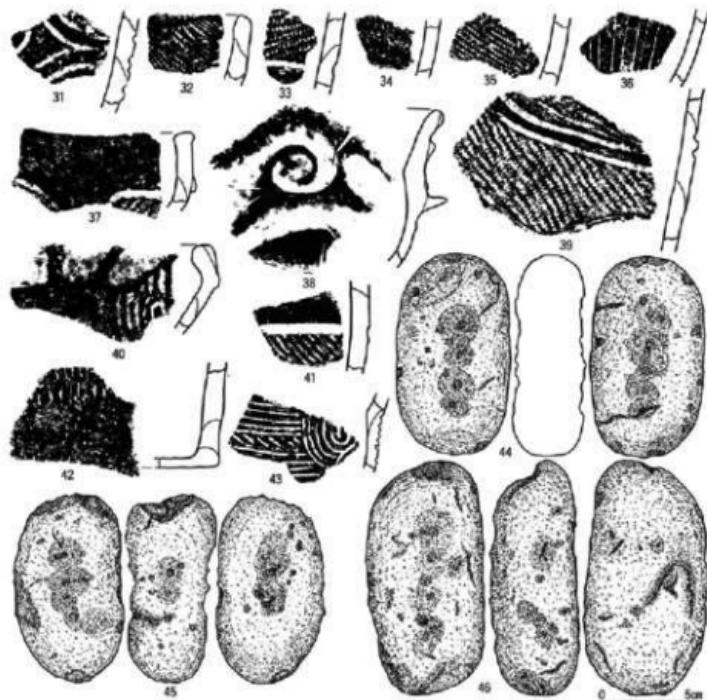
# V 遺物



1：龍京B遺跡 2～5・14：北堂C遺跡 6：北堂B遺跡 7：廣梅遺跡 8～13：新田遺跡 15：三吉西遺跡 16：南寺山遺跡 17・19：二郎極遺跡 18：岩ヶ山遺跡



20~21: 松山通路 22~25: 小峯通路 26~30: 九兵衛山通路



31・32：中里B遺跡 33・34：型ノ木平遺跡 35：西寺山遺跡 36～43：唐梅遺跡 44～46：北堂C遺跡

第14図 土器拓影図・凹石実測図

## 遺物について

1 石鎌・藏京B遺跡　頁岩の横長剥片を素材とし周辺に加工を施す。2～5・14北堂C遺跡　4はBグリッド出土の石鎌で主要剝離面を大きく残し厚手である。2・3は細かい剝離の施された薄手の石鎌。5は縦長の剥片を用いた削器で腹面右半分は上下から、左半分は横からの剝離痕がみられ、切合い関係は前者が新しい。14は縦長の剥片の背面にリタッヂを施した削器である。いずれも石質は頁岩を用いている。6：北堂B遺跡　頁岩の剥片を素材とした搔器であり、縦断面には搔器独特の湾曲がみられる。7：唐梅遺跡　一部脚部を欠損した石鎌であり、縦断面左側刃が凸型を右側刃が凹型をそれぞれ呈している。8～13：新田遺跡　8・9の石鎌は両側縁が開き、基部に浅いえぐりが施され非常に薄手であるところに特徴がある。また11の石鎌は脚の一部を欠損するものの、前者同様石器中央部に達する剝離が加えられ基部にえぐりがみられることから同様の形態を示すものと考える。

えられる。13はほぼ二等辺三角形を呈し基部が直線的になり剥離も縁辺部にとどまっていることから前三者とは趣を異にする石器である。8は尖頭器で体部から先端にかけて欠損しており基部縁辺に細かい加工がみられる。12も一部欠損しているが、石器中心部に向って剥離が施され縁辺には押圧剥離による加工がみられ部厚い刃部が作成されており、円形搔器と考えられる。本遺跡の石器の石質はすべて頁岩である。15：三吉西遺跡 小型の窓状石器で横断面がほぼ凸レンズ状を呈し両面が加工されている。石質は頁岩である。16：南寺山遺跡 縦長の石匙である。頁岩の縦長剥片を素材とし、右側辺には両面から、左側辺には片面からの剥離で刃部を作出している。18：岩ヶ山遺跡 刃部が一部欠損しているが主要剥離面を背に使用し、また刃部の作出や角度、断面形から窓状石器と考えられる。石質は頁岩である。17・19：二階棚遺跡 17は小型の窓状石器で横断面が蒲鉾型を呈する。主要剥離面を背面に用い、打瘤付近の部厚い個所を刃部に当てている。刃部の角度は比較的大きく主要剥離面側の刃部には光沢があり、使用時にできたと思われる擦痕もみられる。18は大型の打製石斧である。平面は短冊形、横断面は凸レンズ状を呈する。両面とも石器中央に達する荒く大きな剥離痕がみられ、両側縁には階段状剥離が頭著である。17・19とも石質は頁岩である。20・21：松山遺跡 捣形を呈する打製石斧。素朴の形態を生かしており細かい加工はあまりみられず、刃部も弧状を呈し剥離痕も少ない。41は刃部を欠いているが短冊形を呈し横断面が凸レンズ形の窓状石器である。両者とも石質は頁岩である。22～25：小峯遺跡 23は平面形が二等辺三角形を呈し基部に浅いえぐりをもつ石器。24は橢円形を呈し厚手の石器である。両面に荒く大きな剥離が加えられているが縁辺部の加工はほとんどみられない。22・25は短冊形をした窓状石器で、前者は縦長剥片を素材とし両面に加工を施し、後者は縦長剥片を素材とし片面加工である。すべて石質は頁岩である。26～30：九兵衛山遺跡 26・27は縦長剥片を素材とした石匙である。23は両側縁を加工した簡単な石器であるが、27は腹面に入念な加工を施し左側辺が「く」の字形になるところに特徴がみられる。29は両面加工の石槍で縦断面に於て左側辺は凸型、右側辺が直線を呈している。28・30は窓状石器。両者とも横断面は凸レンズ状を呈し刃角が大きい。本遺跡の石器の石質はすべて頁岩である。31・32：中里B遺跡 31は2本の平行沈線で文様を描いたものと、32は斜位方向の繩文を施した口縁部破片である。33・34：梨ノ木平遺跡 いずれも体部破片で33は斜繩文と沈線、34は刷毛目が縱走している。35：西寺山遺跡 茶褐色した体部破片で斜繩文が施される。36～43：唐梅遺跡 36は間隔のある条線を施し、37・41は沈線によって区画された磨消繩文、38は隆帶による渦巻文、39は隆起線と沈線で区画し、40・43は沈線で直線・曲線・列点を描出し、42は列点を施した底部破片である。44～46：北堂C遺跡 3点とも磨石を転用したもので2面ないし3面に複数の凹がみられる。



No 3 北堂A遺跡



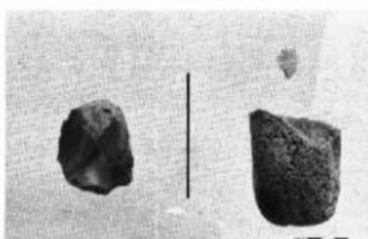
No 4 北堂B遺跡



No 5 北堂C遺跡



No 6 三吉西遺跡



No 7 中峯遺跡

桙平A遺跡



No 8 唐梅遺跡



No 10 平林遺跡

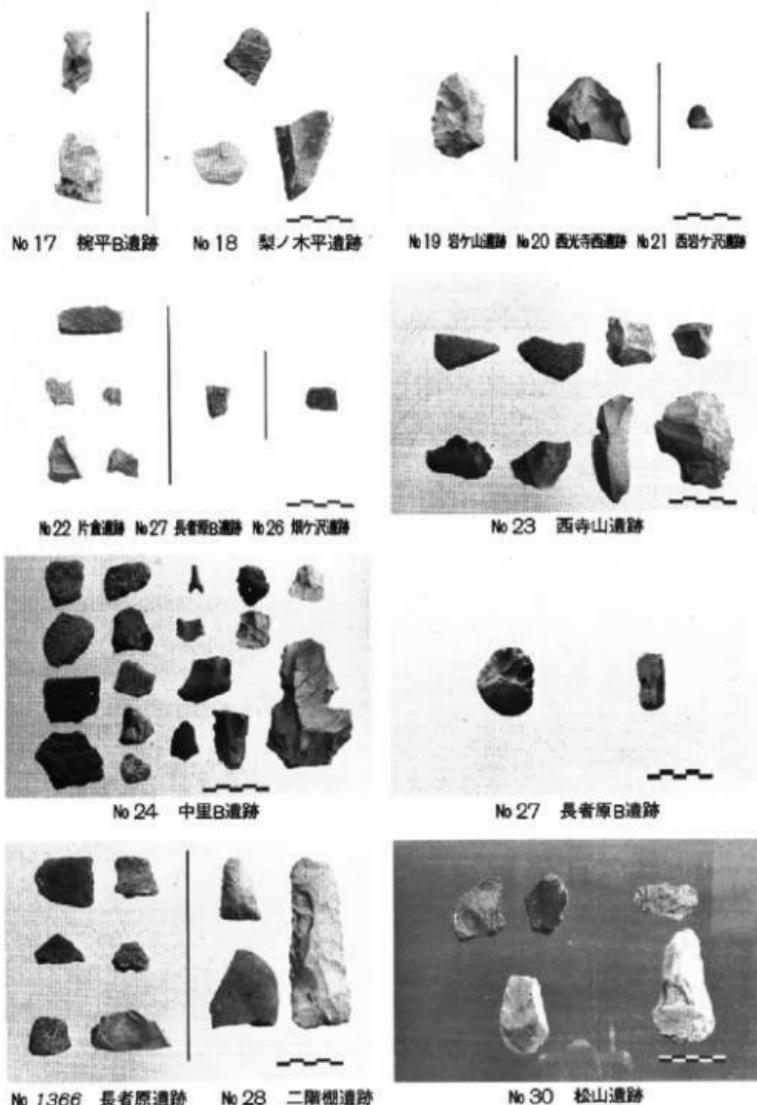
No 11 岡遺跡



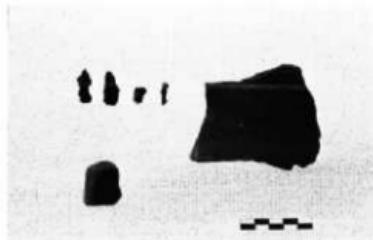
No 14 戸根林B遺跡

No 15 戸根林C遺跡

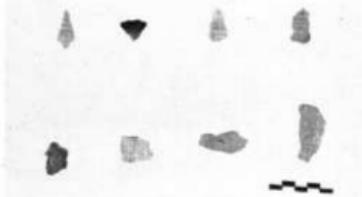
図版9 分布調査遺物



図版10 分布調査遺物



No. 31 白山森遺跡



No. 32 神明森遺跡



No. 33 小峯遺跡



No. 33 小峯遺跡



No. 36 九兵衛山遺跡



No. 36 九兵衛山遺跡



No. 36 九兵衛山遺跡



No. 1366 長者原遺跡

図版11 分布調査遺物



No 1368 南寺山遺跡



No 1369 新田遺跡



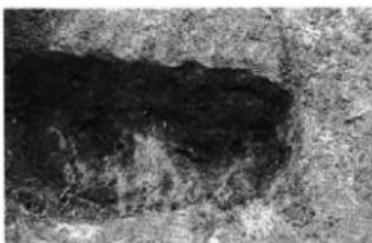
No 1369 新田遺跡



No 1371 藏京B遺跡



No 5 北堂C遺跡調査風景



No 5 北堂C遺跡石器出土状況



況 31 白山森遺跡北東側空撮



No 31 白山森遺跡建物跡

圖版12 分布調查遺物

## IV ま　と　め

- 1 西山山麓に散在する遺跡のうち、昭和53年刊の「山形県遺跡地図」には8遺跡が登録されているが、本分布調査によって新たに50遺跡を確認した。しかし地形的にみて遺跡として好立地とみられるところであっても、現況が森林・原野等で試掘調査の困難なところも多かった。実際には相当数の遺跡がそこに潜在しているものと思われる。従って山麓一帯には周知の遺跡と新規発見の遺跡とて58遺跡となるが、実際には100を越える遺跡が散在しているものと推量した。
  - 2 本分布調査は、昭和60年から着手される「広域農業團地造成農道整備事業」とそれに伴う「農用地開発事業」に備えての調査とした。従って新規遺跡の発見に重点を置いて実施し、周知の遺跡と新規遺跡の範囲確認を第2の重点とした。その結果、60遺跡は1図のとおり45遺跡に統合した。

その中で遺跡の集中する地域は、勘進代の藏京、北堂、唐梅、草岡の新田、中里堤周辺、梨の木平、長者原、川原沢の二階棚一帯である。寺泉地内の御殿、上野一帯にあった遺跡（大集落址）は大規模な開田のために全壊していまはその痕跡すら留めない。
  - 3 遺跡の種別は旧石器、縄文、城館址、土壙である。

旧石器の遺跡は、北堂C、藏京B、小峰の各遺跡である。その中で北堂C遺跡は旧石器から縄文にわたる遺跡と考えた。今まで山麓台地から旧石器が出土したのは、長者屋敷、長者原B 藏京A 遺跡であるが小峰、北堂Cの各遺跡は旧石器末葉に位置づけられる。その他の大部分は縄文遺跡である。その中で九兵衛山は早期・前期の遺跡で、採土によって一部は破壊されたがそれ以外は保存状態が良好である。そのほかの多くの遺跡は開墾による遺物包含層の破壊も少なくはないと思うが、造構までの破壊は少ないと考えた。

また山麓添いに4つの館跡を確認した。南から南鳴石（381m）、小屋館（379m）、白山森（303m）、戸根林（334m）と築城されている。南鳴石と小屋館は平野部に突き出した山腹に平場をつくり鞍部に空塗を設けた館跡である。白山森と戸根林は山麓の前面に造られた山塊を利用して築城している。
  - 4 白山森は二重の濠を東側と北側に巡らし、特に北側が深く3m余の深さで障子堀を營んでいる。南北に延びる尾根には土壙と掘切を設けている。東と北斜面には十数基の土壙を造っている。東側斜面中央部に盛土と思われる突き出た箇所がある。西側は急斜面をなし要害となっている。
- 頂上の平坦部西端に白山神社祠跡がある。内濠から頂上までは緩い傾斜地となり、そこを削って25の平場をつくっている。頂上付近の平場は大きな広場をつくっている。

また4基の墳墓は積石塚で2基ずつ並びその前面に広場をもっている。

平場の一部を2図のように発掘したが3ヶ所に建物跡を検出した。柱穴の径は15~20cm、深さ約20cm、間尺は何れも2m30cmである。遺物は珠州系中世陶器1片を検出。

館の規模は戸根に比べて小さいが、全体としてまとまりがよく地形を最高度に活用した築城をみせている。年代は不明である。

- 5 白兎地内の山麓に「六道の辻」とその付近に土壇群を確認した。六道の交叉するところに六面幢が建ち「享保18年癸丑八月二十四日導師全童院」と刻してある。辻ごとに地蔵菩薩の名号を刻した自然石が建てられている。

六道の辻南側一帯に9基の土壇を確認した。白兎地内には修験者が多く、羽黒派の全童院と当山派の大藏院の二ヶ寺があった。そしてそこには長い抗争の歴史があった。これらの土壇は羽黒信仰によるものか、葉山信仰に由来するものかは今後の調査によらなければならない。

- 6 本遺跡詳細分布調査の成果は多くの新規遺跡を発見できたことと、調査事業を進める中で開発関係者は勿論、地域の人びとにも遺跡保護についての理解と関心を高めることができたことである。更に日本緑化センターと市において「遺跡保全林モデル緑化計画」(古代の丘づくり)が進めることになったのは、今後の遺跡の保護と活用のうえで大いに期待したいものである。



---

西山山麓広域営農団地造成  
農道整備事業関係遺跡  
**分布調査報告書**

昭和58年3月25日 印刷

昭和58年3月31日 発行

発行 長井市教育委員会  
長井市小出2,089番地  
TEL 02388-4-2111

印刷 印刷の芳文社

---

